

2月地区別総代会議の報告内容をお知らせします

くらしが大変な時だからこそ… ふだんのくらしに 役立つ事業をめざして

《よどがわ》では、毎年2月に総代(組合員の代表を対象に、1年間の事業・活動のまとめを報告しています。昨年度からの世界的な景気後退により、組合員のくらしと生協の経営は厳しさを増しています。《よどがわ》ではこれまでも事業の効率化に取り組んできましたが、2009年度(2009年4月～2010年3月)の供給見通しは前年度実績を下回る見通しとなっています。

今回の特集では、2月地区別総代会議での報告の中から、班配送(共同購入)の現状についてお知らせします。(図参照)

特に班配送は赤字です
無店舗事業経常剰余
(2009年4月度～2010年1月度)

	今年度実績	(前年実績)
班配送	△9,383万円	△3,895万円
個配	1億1,423万円	1億6,069万円
合計	2,040万円	1億2,174万円

要因
①1班当り、1回当り利用高の減少(1～2人班が約50%)
②年々班数が減少しており、よどがわ生協のエリア内での配達場所は、個配と班で8:2の状況。班から班までの距離が年々長くなっています。

《よどがわ》はこれまでも、班配送は効率的に商品をお届けできる形態であり、組合員同士、また職員と組合員とのコミュニケーションの場(商品や組合員活動の情報交換など)としても重要な位置付けをしています。引き続き、班を大切にしたい班配送のあり方について、討議を続けていきます。

特徴的な意見・感想

商品について
くらし応援宣言商品をはじめ「低価格の商品はとも助かっています」との声や、「品質・安全性についてもっとアピールしてほしい」などの要望が出されました。

商品案内カタログについて
「カタログが多くて見きれない」「おすすの商品が商品案内本冊と別チラシの2回に載っているが無駄では」など改善を求める意見が多く出されました。

店舗について
現在《よどがわ》には茨木市と吹田市に2店舗あります。「存続できるように努力してほしい」「存続・撤退基準は守ってほしい」などの意見が出されました。

経営について
一般情勢の厳しさを反映し、経費削減について積極的な提案意見が出されました。

配送効率の向上のため、2010年度、個配と班配送を同じトラックで配送する「あわせ配送」を検討するという提案については

マンションに個配と共同購入のトラックが同じような時間にきているので効率が良くなると思います。

など、賛同する意見が多く出されました。一方、意見交流の中では、

1～2人班が5割もあることについて心配していました。

個人別仕分けになって、班でわざわざ回す機会が減っていました。

商品の預かりあい難しくなってきました。

など、班配送に対する意見や悩みも多く出されました。

2009年度組合員の声をもとに要望を実現しました

なんでも噛んでも
「おせち」組合員アンケートで味付けなどを改善
前年比124%と利用が増えました

やまなみ強太
底にカルシウムがたまる
『よく振ってお飲み下さい』の表示をわかりやすくしました

第5支所組合員の声から
企画実現

配送によるご理解 ご協力をお願いします。

これまで配送効率改善のとりくみをおこない地図システムを利用することにより約7%の効率アップが実現しましたが班配送はまだ赤字をたっています。

今後更なる効率改善のため、班と個配を同じトラックで配送する「あわせ配送」の導入、班利用制度の再徹底をすすめていきます。

※班利用制度

- ①新班は3人以上で結成し、利用は3人以上を原則とします。
(1世帯1名の加入とします)
- ②お届け先は、班で1カ所を原則とします。
- ③一人だけの利用が続く場合は個人宅配と同様の配達手数料をご負担いただきます。

NEWS FILE

ニュースファイル

15周年記念講演

産直タイ産バナナ15周年記念行事開催報告

2 010年2月27日、タイ国トンカーワット農民会にて産直タイ産バナナ15周年記念行事が、大勢の生産者の参加により盛大に開催されました。

本来は昨年実施されるべきでしたが、新型インフルエンザの流行により延期となりました。参加者は、トンカーワット農民会理事と生産者、生産指導に当たっている現地スタッフなど150名、《よどがわ》から大西理事長、山本常務理事、藤田商品担当部長が参加しました。また今回《コープ》からは白石常務理事が参加されました。

大西理事長が、朝食として日本に根付き、消費の落ちている果物の中で唯一、バナナが伸びている事例を報告しました。そしてその後、バナナ事業15年間の取り組みの成果と教訓、今後の課題について基調講演を行いました。



▲講演する大西理事長

次にタイ生産者による来日経験者報告が行われ、ラメーホームトンバナナグループ(現トンカーワット農民会)設立メンバーであり、1995年第二回来日訪問団に参加したゴーンソンさんより、タイでの栽培開始時の研修の費用を「自分たちのためなので、自費で行ってください」と言われ、逆に信頼感が増したエピソードの紹介がありました。また日本の生協組合員は「ホームトンバナナを作っている農家」を愛していることを、来日して強く感じたことなどが報告されました。

また、他の生産者からも、「日本でホームトンバナナを愛してくれていることがわかり、作付けを増やした。良いバナナを作れば喜んで買ってくれると確信している」と発言がありました。

このあと、16年間ずっとバナナを出荷し続けている生産者や圃場管理に優れている生産者、歩留まり優良生産者、出荷量の多い生産者が表彰され景品として肥料が送られました。また加工技術に優れている人などに景品としてポット、扇風機が送られました。その後、有機栽培の経験交流などがあり、これからも良いバナナをいっぱい作ろうと全員の気持ちが一つになり、記念行事が閉幕しました。



あいさつを交わす山本常務理事



生産者のみなさん